

のに対し、中世以降の木簡断片においては、内容の憶測もままならないという点が存在することも事実なのではあるまいか。この背景には、木簡に関する研究が古代史を中心になされてきたという、研究状況の看過できない事情があると推測する。中世・近世の木簡に関する研究はまだ緒にいたばかりであり、近代木簡にいたっては木簡の認定などにおいてなお曖昧な側面を残している。出土する木簡が地域的にも時代的にも多様化している昨今、木簡に関しての多方面からの発言を期待したいものである。

なお、昨年度の研究会において、「二〇〇四年全国出土の木簡」として報告した遺跡のうち、奈良県石神遺跡（第一七次調査）・山田道（第八次調査）、京都府平安京跡右京四条四坊十六町、東京都向柳原町遺跡・台東区No.七五遺跡・同八八遺跡・同九一遺跡・同九二遺跡・同西町遺跡西町公園地点、山形県山形城跡・高畠町尻遺跡・大在家遺跡（第九次・第一〇次調査）・亀ヶ崎城跡、秋田県岩倉館跡、石川県森ガッコウ遺跡、徳島県勝瑞城館跡に関する報告文は掲載することができなかった。また、二〇〇三年度以前の研究会で紹介した遺跡に関しても、いまだ掲載できていない事例が数多く存在する。いずれもやむをえない事情によるものと思われるが、関係機関の協力を仰ぎながら、できるかぎり速やかな掲載を実現できよう、努力していきたいと考える。

（吉江 崇）

全国木簡出土遺跡・報告書データベースの公開

二〇〇四年二月、木簡学会は、奈良文化財研究所と協力して、『全国木簡出土遺跡・報告書総覧』（以下『総覧』と略称）を刊行した（本誌第二六号二五八頁参照）。『総覧』は二〇〇二年末までに公表された全国の木簡出土遺跡（九七五遺跡、三二一八四点）を対象としているが、その後も木簡出土情報が増加し、寄せられており、データの増補が望まれていた。

そこで奈良文化財研究所史料調査室では、『総覧』編集段階のデータをもととして、近年の出土情報を加えたデータベースを作成し、奈文研のホームページにて、今年一〇月二七日から公開を始めている。本誌第二六号までに掲載された事例や、本誌未掲載であるが報告書が刊行されているもの、本誌掲載後に刊行された報告書の情報などを増補して、現在一〇〇一遺跡、三二一〇〇点余の木簡出土情報が登録されており、今後も随時データの更新が予定されている。なお、冊子版の正誤表も同時に公開されている。

アドレスは左記の通り。

<http://www.nabunken.go.jp/database/>